

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
L204	都市と交通 I / 都市と交通	2年	講義	2	古池弘隆
授業概要 都市に住む人々の生活を支える機能の中でも円滑、安全、快適な交通システムは最も重要なもののひとつです。しかし近年のモータリゼーションの進展による都市交通問題は、慢性的な交通渋滞、交通事故、地球の温暖化による異常気象など悪化の一途をたどっています。また、高齢化による交通弱者の増加も大きな問題です。公共交通の衰退や都心の空洞化も課題になっています。都市と交通 I では、まず世界と日本の交通の歴史を振り返り、現在の交通問題を詳しく調べて、それらの問題解決に向けた手法を学習します。					
到達目標(学習の成果) ・世界と日本の交通の歴史を学び、現代の都市生活における交通の現状とその課題を理解することができます。(DP3) ・交通問題の解決のためのさまざまな方法について、一般的な問題解決手法としての代替案の列挙と評価の手法を身につけることができます。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	序論ー ものの見方と考え方	問題の発見法、いろいろな解決策とその評価方法について学びます。例として川の兩岸の都市に住む人々の選択肢や世界地図の見方などについて考えます。			
2	交通とはなにか	人間の活動における重要な機能である交通について、その定義、交通の要素、交通の要件などについて学びます。			
3	世界の交通史(古代～近世)	古代から近世までの世界の交通の歴史の中でも車輪の発明は最も重要なもののひとつです。また航海術の進展は新大陸の発見の契機となりました。			
4	世界の交通史(近代～現代)	近代から現代までの世界の交通史、特に自動車の発明により大きく影響を受けてきたアメリカの交通史を中心に学びます。			
5	日本の交通史(古代～江戸時代)	古代から江戸時代までの日本の交通は主として徒歩や馬によって行われてきました。街道の歴史を中心に外国との比較で日本に特異な交通の歴史を振り返ってみます。			
6	日本の交通史(明治時代～現代)	明治維新から現代までの交通の歴史は、まず鉄道が、次いで自動車が使われてきました。それらの交通機関と都市との関係について学びます。			
7	都市交通問題の背景と現状	20世紀の最大の発明は自動車ですが、モータリゼーションがもたらした様々な交通問題とその影響について考えてみます。			
8	交通渋滞	増加し続ける自動車は世界中に深刻な交通渋滞をもたらしています。その原因と現状について概観します。			
9	交通事故	世界で毎年120万人以上の人々が交通事故で亡くなっています。自動車による交通事故の歴史的推移と現状、原因とその対策について詳細に論じます。			
10	交通公害	自動車からのCO2の排出は地球温暖化の原因のひとつとなっています。またPM2.5などの大気汚染は中国をはじめ新興国において深刻な事態となっています。			
11	公共交通の衰退	戦前から広く使われていた路面電車やバスは、モータリゼーションの普及によって利用者が減少し、公共交通の衰退と交通弱者の増加という悪循環をもたらしています。			
12	スプロール化と都心の空洞化	自動車の普及により住宅や商業施設が郊外にスプロール化しました。その結果、中心市街地の空洞化が進展していることを学びます。			
13	道路ネットワーク	自動車を効率的に利用するためには、放射環状などの道路網計画、高速道路網から生活道路までの道路の段階的構成が必要です。			
14	道路交通制御	自動車、自転車、歩行者などによる道路交通の安全・円滑化のために、交通信号、交通標識などによる交通制御が必要であることを学びます。			
15	高度道路交通システム	高度道路交通システム(ITS)の一環としてのETCやVICSが普及し、道路環境は大きく変化しています。それらの新しい動きを紹介します。			

準備学修(授業外の自己学修)

毎日の通学などで、交通は必要不可欠な生活行動の一部となっていることを認識し、安全で快適な交通のあり方について考える習慣を身につけます。そして、その体験を授業の中で発表したり、解決策についての議論をする準備をします。

成績評価の方法・基準(%表記)

理解を促進するため、講義の進捗状況に応じて、何回か簡単なテスト・レポートを行います。その評価は20%
期末試験の成績 60%、受講態度の評価 20%

観点	S	A	B	C
都市交通の現状や課題に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市交通問題の解決策に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

教科書は使用しません。

参考書等

交通史年表や交通事故統計などの資料のコピーを必要に応じて配布します。

履修上の注意・学修支援

出席状況・受講態度を重視します。出欠は毎回授業開始後 30 分の時点でエクセル表示により確認します。

全 15 回の講義の 3 分の 2 以上の出席がなければ期末試験を受験することはできません。

また、授業内容に関する質問を歓迎し、積極的に学生の意見や考え方についての発言を促します。